

トキソウ *Pogonia japonica* Reichb.f.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有度階級 2。貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。地下茎は細くてやや硬く、長く横にはう。地上茎は直立し、高さ 10～30cm になる。葉は茎の中部に 1 個つき、無柄、葉身は披針形～線状長楕円形で、長さ 4～10cm、幅 7～12mm、先端は通常鋭頭、基部は次第に細まって茎に翼状に流れ、鞘をつくらない。花期は 5～7 月、花は茎の先端に 1 個つき、横向きに開いて淡紅色、苞は葉状で披針形、長さ 2～4cm である。背がく片は長楕円状倒披針形、長さ 1.5～2.5cm、幅 3～5mm、先端は鈍頭、側がく片はやや幅が狭く、側花弁は長楕円形、がく片よりやや短い。唇弁はがく片と同長、3 裂し、側裂片は 3 角形で翼状、中裂片は大きく、内面や辺縁に肉質の毛状突起が密生する。距はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(芹沢 55562) 作手(芹沢 56040)、豊橋北部(瀧崎吉伸 9419) 渥美(芹沢 58623)、稲武(日比野修 4013) 小原(日比野修 3669)、藤岡(日比野修 2900) 豊田東部(芹沢 58678)、豊田北西部(芹沢 54943) 岡崎南部(芹沢 51606) 瀬戸尾張旭(日比野修 429) 日進長久手(渡辺昌代 s.n.) 犬山(芹沢 55634)、春日井(芹沢 55630)。ただし設楽西部は湿地の埋め立て、岡崎南部と犬山は園芸目的の採取により絶滅した。新城(有海原、鳥居喜一 6465, 1968-6-22, HNSM) 名古屋北部(東山、井波一雄 s.n., 1967-6-15, CBM222750)、名古屋南東部(天白村、井波一雄 s.n., 1952-6-25, CBM235976) で採集された標本もある。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育するが、北日本に多い。

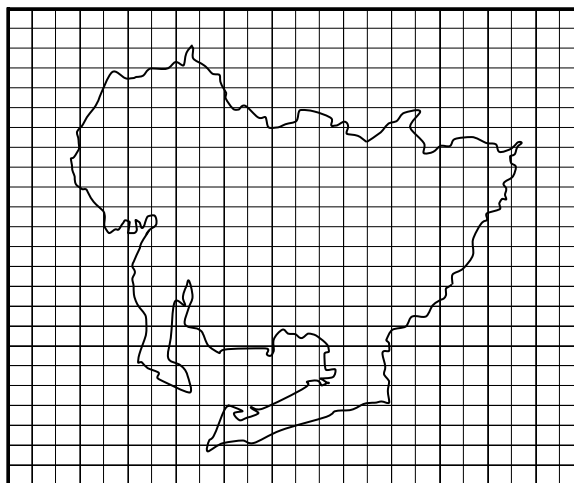
【世界の分布】

千島列島、日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

かつては本地域の湿地にかなり普通に見られたらしいが、花が美しいため集中的に乱獲され、激減した。どの湿地でも、人が入れば最初に消失するのは本種であると言ってよいほどである。長く横走る根茎の途中から新株を出すため、繁殖力がそれほど弱いとは思えないが、採取圧はそれをはるかに上回っている。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

一方春日井市の築水池北岸は、容易に人が接近できないため本種が安心して生育できる数少ない場所の一つであったが、遊歩道が整備され、誰にもすぐ目につくようになってしまった。一度作ってしまった遊歩道を閉鎖できないとすれば、後は多くの人目監視していくほかない(山田・芹沢, 2001)。このような場所は、本来は自然の聖域として、遊歩道の設置を避けるべきであった。自然とのふれあいのための施設を整備する際には、十分な事前調査と長期的保全のための配慮が必要である。

【引用文献】

山田果与乃・芹沢俊介, 2001. 野山を歩こう 築水池・弥勒山の植物. 愛知県植物誌調査会, 刈谷. 32pp.

【関連文献】

保草本 p.25、平草本 p.205、SOS 旧版 p.114、環境庁 p.621。